

六中だより

～学校教育目標～
“ 学力と情操 ”
“ 健康と忍耐力 ”
“ 勤労と責任 ”

生徒のみなさんへ (朝礼校長講話にかえて)

校長 黒沼正彦

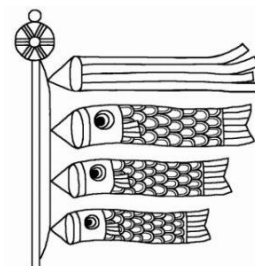
例年この時期は、5月の連休を迎えさわやかな風を感じて、4月からのあわただしいスタートからほっと一息つく、そんな季節です。昨年今頃は、令和の天皇陛下が即位する年にあたり10連休となり、いつもの年より休みが長いと感じた人も多かったと思います。

それから1年経ち、まさか2か月も生徒の皆さんが登校することすらできない事態になるとは予想もできませんでした。このあとも、まだまだ先行きがわからない状況であり、生徒の皆さんもとても不安な気持ちでいることと思います。校長の私も、先生たちも、皆さんには1日ずつしか会えていませんが、皆さんのことを想い続ける毎日を送っています。早期の学校再開を信じて、授業やいろいろな学校の行事のこれからの予定や内容について、できる限りのことを例年通りさせてあげたいが、それがかなわない場合どうするか、何ができるのか、考え話し合いをしてきました。緊急事態宣言が出されてから、感染拡大を防ぐために、多くの先生が在宅での勤務となりましたが、それぞれが自宅で準備を続けてくれています。

今は出口のないトンネルはないと信じて、一人一人が希望を見失わずに、感染防止に向けてできることをやっていくことが大事なのではないでしょうか。世の中には、思い通りにいかないことがたくさんあります。私は今まで、それを、いやなことととらえないで、自分にとって貴重な学びの機会と考えるようにしてきました。「これは大変だ、解決することができないかもしれない。」と思うような大変なことも、時間が経ち振り返ると、必ず解決でき、その経験を通して、自分のものの見方が広がったり、自分の心の成長に必要なことだったと思えることとなります。今回のことも私はそう考えていきたいと思っています。

この大変な状況の中で、今どうしても皆さんに考えてほしいことがあります。それは、感染症に近いところにいる人へのそうでない人からの差別の問題です。病気になってしまった人、そして、その人たちの命を救おうと、必死で治療してくれている医師や看護師、そしてその家族が、一部の人によって、ひどいことを言われたり、近づくことを避けられるようなことが現実起こっています。お互いに支えあい助け合わなければいけない時に、感染症ではなく人間の心が悪魔のように悲しい事態を拡大させることはとても悲しいことだと私は思います。皆さんはどう考えますか。

今回、お世話になった先生方とのお別れの機会を奪われたことも、とても残念なことです。離任式の代わりとはなりません、先生方にメッセージを送っていただきました。お忙しい中送ってくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



離任した先生方からのメッセージ

今年度の離任式を5月1日に予定していましたが、臨時休校のため中止となりました。
代わりに離任した先生方からのメッセージを紹介します。

○校長 本橋 智博 先生

皆さん、こんにちは。元気になっていますか。私は、4月1日に世田谷区立瀬田中学校の校長として転任をしました。本来なら、離任式でお別れの挨拶をするはずでした。お会いできないのが残念です。

新2・3年生の皆さん進級おめでとう。新3年生の皆さん、今年は自分の進路を決めていく年です。不安が一番大きいのは皆さんだと思います。今できることは、この状況に負けず、地道にできることをやるということです。皆さんなら必ずできるはずです。新2年生の皆さん、六中を支える中堅学年としての力を示す機会は先に延びていますが、伝統を引き継ぐ2年生としての活躍を期待しています。そして新入生の皆さん、入学おめでとう。きっと皆さんは六中生として頑張ろう。という決意をもってこの四月を迎えてくれたと思います。その気持ちを大切にしてください。

新型コロナウイルスという予期しない困難が行く手を阻んでいます。しかし明けない夜はありません。六中再開の日まで、健康に気を付けて力をたくわえてください。そして六中再開の暁には新しい黒沼校長先生をはじめとした先生方と仲間とともに力強く前進してください。

六中生の皆さん、卒業生の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様、教職員の皆様、府中六中在任中の四年間本当にお世話になりました。六中50周年の年に着任し、あっという間の日々でしたが、とても素敵な日々を過ごさせていただきました。どこかでお会いできる日を楽しみにしています。本当にありがとうございました。

○音楽科 渡邊聡子 先生

皆さんこんにちは。先日、今勤務している学校で登校日があり、久しぶりに生徒の笑顔に出会いました。心が明るくなり、今まで生徒からエネルギーを貰っていたことをあらためて実感しました。そして、六中のみんなはどうしているだろうと想いを馳せました。

六中で過ごした6年の間には、多くの出会いがありました。そしてたくさんの感動をもらいました。先日、家の引き出しの奥底に眠っていたヴォイスレコーダーを、なにげなく再生してみたら、2年前の卒業生（現高校3年生）が卒業式で歌ったものでした。その力強く心を揺さぶる歌声は「六中魂」という言葉を思い起こさせました。「決意」「河口」これはこの春卒業生が歌う予定だった曲目。練習を重ねたら、きっとすばらしい合唱になったに違いない。そう思うとまた悔しい気持ちが蘇ってきました。

3年生の皆さん、今は我慢の時ですが、またいつも通りの日常が戻ってきたら最高学年として充分力を発揮できるように今はそれぞれの場所で自分の目標に向かって頑張ってください。1、2年生は3年生を手本とし、先輩たちが残してくれた伝統を受け継ぎ、六中をさらにすばらしい学校に築き上げてください。

私が（たまに）発行していた音楽だよりのタイトル“moving”の意味は「感動」。感動する心を持ち続けてほしい、それが私の願いです。

最後になりましたが、保護者の皆さまには様々な場面で助けていただき本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

4月6日
校庭にて 担任の先生等 発表



○英語科 菅沼 愛里咲 先生

みなさんお元気ですか。どのように毎日を過ごしているでしょうか。

私は、このようなことが起こり、より一層、みなさんと出会い、過ごしていた日々の生活が、かけがえのないものであったなと感じています。

私にとって、府中六中は初めての学校でした。そのため4月当初は、緊張と不安でいっぱいでした。しかし、その不安もいつのまにか消え、学校に行ってみなさんに会うことが、本当に楽しみになり、毎日が充実したものになっていました。それは、みなさんのおかげです。

みなさんの明るい挨拶で朝が始まり、授業ではメリハリを持ち、積極的に参加していました。給食の時間には、私の席と給食をクラスに毎日準備してもらいました。昼休みは、色々な話をして、一緒に過ごしました。すごく楽しかったです。帰りは、さようなら、また明日と声をかけてくれました。放課後は、一緒に部活をして、全力で目標に向かって取り組む、真剣でたくましい表情を見せてもらいました。

このようなみなさんの思いやり、優しさ、力強さにたくさん触れて、素敵な一年間を過ごすことができました。ここには書ききれないけれども、全てに感謝しています。ありがとうございました。

これからも、素直で、思いやりのある六中生でいてください。体には気をつけて。また、いつの日かどこかで元気な姿を見られること楽しみにしています。

最後になりましたが、温かく支えてくださった、地域の方々、保護者の皆様、また優しく見守りながら、ご指導してくださった六中の先生方、本当にありがとうございました。

○数学科 川久保 裕介 先生

六中生のみなさん、こんにちは。みなさんと一緒に生活したのは1年間だけでしたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。はじめて六中に来たとき、生徒のみなさんからのあいさつがたくさんあって、とても思いやりがある優しい生徒がたくさんいる学校なんだと感じたことを今でも覚えています。

体育大会や合唱コンクール、クラスでの活動など、様々な行事にみんなで協力して助け合いながら取り組む姿勢をみて、一人ひとり個性はあるけれど、みんながみんなのことを思いやる素敵な生徒が多いと感じていました。これからも相手を思いやる優しい気持ちを忘れずに、いろんなことにチャレンジして成長していったほしいと思います。みなさんの成長がとても楽しみです。

また、みなさんには「今しかできないことを大切にしてほしい」と思います。人にはいつでも「今、この瞬間、自分にしかできないこと」というのが必ずあります。それをぜひ大切にしてください。授業を受けるにしても、部活をやるにしても、そういう意識を持つだけで毎日の生活が変わってくると思います。この中学校生活の3年間を悔いなく過ごしてください。1年間お世話になりました。ありがとうございました。

○美術科 酒匂 瑛子 先生

1年前、第六中学校に赴任が決まった時は楽しみと不安でいっぱいでした。新しい生徒・先生方との出会い、今まで勤務してきた学校の中で一番生徒数が多く自分に務まるのかという不安の中での赴任でした。はじめて学校を訪れた日、元気に挨拶してくれた生徒に会った時その不安は和らぎました。学校生活の中で、嫌なことや落ち込む経験はありませんか。私もそんな日がありましたが、皆さんの挨拶で元気をもらっていました。元気な挨拶は人を明るくさせる力があると感じました。休校の中で生活リズムを整えることはとても難しいと思います。なるべく学校へ行く時間に起きて家族に「おはよう」を言って1日を始められるとよいですね。

コロナウイルスの影響で臨時休校が続き、外出自粛の中当たり前だと思っていた日常が急に奪われ、先の見えない不安に襲われている人も多いと思います。私も後悔やもっと皆さんと学校生活を送りたかったということもありますが、先に進むしかありません。目の前の「できることをやるしかない」と気持ちを切り替えて過ごせるとよいですね。ちなみに新しい学校での初仕事は図工室の大掃除でした。10日間ずっと掃除をして、ごみ袋で廊下がいっぱいになりました。掃除も気持ちを切り替えたい時におすすめです。そして1日でも早く元気な挨拶が飛び交う学校生活が送れることを願っています。1年間、皆さんと過ごせて楽しかったです。本当にありがとうございました。

○英語科 柴原 達也 先生

昨年の4月、どんな学校なのだろうと期待と不安を抱きながら門をくぐりました。しかし、思いやり溢れる六中生の皆さんのおかげですぐに学校に馴染むことができ、たくさんの思い出と一緒に築くことができました。

始業式の日、校歌を歌う皆さんの姿に圧倒されたことを今でも鮮明に覚えています。合唱コンでは、多くの先生方も感動していました。皆が団結して生み出す力は、これだけ人の心に響き、感動を与えることができます。これは大変素晴らしいことで、六中の誇るべき伝統です。この大事な伝統をこれからも絶やすことなく、引き継いでいってほしいと思います。

私は、羽村市の羽村第一中学校に異動しました。皆さんとお別れするのは寂しかったです。今も思うことは、本当に素敵な先生方と生徒に恵まれたということです。今も六中の皆さんに会いたいと思うことがありますが、今いる場所で素敵な日々を送れるように頑張っていきます。一年間と短い期間ではありましたが、本当にありがとうございました。また元気な皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

○理科 佃 尚樹 先生

府中第六中学校の皆さん、短い間でしたがありがとうございました。たった半年しか府中第六中にはいなかったというのが嘘のように濃い時間を過ごすことができました。私にとってこの学校は初めての学校で不安なことばかりでしたが、先生方はいつも気遣って私を見守って下さり、生徒の皆さんは、廊下ですれ違ったり挨拶をし、いろいろな話をたくさんしてくれて次第に心地のいい場所へ変わって行きました。このような本当に温かい環境に教員として初めて赴任することができたことをうれしく思っています。そして第二の母校のようにも思っています。

私はこの府中第六中学校に来て、ちょっとした夢ができました。ある日、六中のある先生と府中駅を歩いていると、その先生の教え子が声をかけてきました。その子からしたら町でたまたま見かけたから声かけよう、と思って話しかけたのでしょう。ただ、私はその先生と教え子の楽しそうに談笑している姿を見て、なんだかとてもうれしい気持ちになりました。いつかこうやって私も大きく成長した教え子にあつたわいもない話をしたいな、これが私の小さな夢になりました。私は今、府中第五中学校で働いています。もしどこかで見かけたら、遠慮せずに声をかけてほしいです。たわいもない話をしましょう。

最後になりましたが、府中第六中学校で教員として働くことができたこと、少しでも担任を経験できたこと、そして皆さんに出会えたことに感謝しています。本当にありがとうございました。

